

平成29年度和歌山県学習到達度調査結果(H29. 10. 18実施)

H29.12.27公表

教科別平均正答率

	平均正答率(%)					平均正答率(%)				
	小4年		小5年			中1年		中2年		
	国語	算数	国語	算数	理科	国語	数学	国語	数学	理科
和歌山県	60.4	71.2	61.9	65.9	60.0	54.7	69.2	53.4	53.9	49.0
紀の川市	59.2	71.5	62.2	68.1	62.6	57.6	67.3	53.3	52.7	47.5
県比	(1.2)	0.3	0.3	2.3	2.6	2.9	(1.9)	(0.1)	(1.2)	(1.5)

※県平均を下回るものは、色を付けています。

評価の観点別平均正答率

学年		評価の観点別平均正答率(%)									
		国語				算数・数学			理科		
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
4年	和歌山県	67.2	56.7	45.5	70.4	50.0	83.5	72.2	-	-	-
	紀の川市	68.4	57.0	44.7	67.5	50.4	84.1	72.0	-	-	-
5年	和歌山県	76.4	54.5	45.7	71.3	53.2	73.9	64.5	55.8	70.1	60.5
	紀の川市	76.7	55.0	44.3	72.7	54.7	76.4	66.7	56.1	70.2	65.8
中1年	和歌山県	49.1	53.4	54.6	56.1	68.1	68.2	73.3	-	-	-
	紀の川市	49.0	71.1	52.8	61.3	66.7	65.5	72.6	-	-	-
中2年	和歌山県	51.0	79.8	54.5	47.9	35.9	57.3	61.1	47.6	58.0	46.0
	紀の川市	55.7	88.3	53.9	45.5	33.6	56.3	60.4	46.5	56.8	43.9

※県平均を下回るものは色を付けています。

【調査結果から】

結果から、小学生の平均は県平均を超えているものが多く、一定、学力の定着が図れているといえます。一方、中学生は、1年生の国語科以外は県平均を下回っており、学力の定着が十分図れていないといえます。

教科別結果では、全学年において国語科の「読むこと」の平均が県平均を下回り、読む能力の育成を図ることが必要であるといえます。しかし、「書くこと」においては、全学年県平均を上回り、書く能力が定着していることがうかがえます。

算数・数学科においては、5年生を除き、「数量や図形についての知識・理解」に課題が見えました。また、中学1・2年生では、観点全てにおいて県平均を下回り、全体的に数学の力の定着が図れていないといえます。まずは、基礎的な力の確実な定着を図ることが必要であるといえます。

理科においては、小学生は県平均を全ての観点において上回り、理科の力の定着が図れていると言えます。一方、中学生は全ての観点において県平均を下回り、理科の力の定着が図れていないといえます。実験等で体験したことを知識として定着させることが必要であるといえます。

今後は定着率の低かった領域について学習内容を定着させて進級できるように授業改善・補充学習を充実させる必要があります。また、各学校での取組を共有することで、市全体の学力向上につながるよう努めてまいります。ご家庭におかれましても、学習した内容の定着を図るための復習などの家庭学習や、文章に慣れ親しみ、想像力や関係把握力の素地になる読書習慣を身に付けられるようご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。